

～市民の力で“宮古まち”に賑わいを season3～

平成29年地域政策研究センター地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：中心市街地の活性化に向けた市民の連携と地域資源の活用に関する実践研究

研究代表者：盛岡短期大学部 准教授 内田信平

課題提案者：宮古市企画部 復興推進課

研究メンバー：岩間健、加藤敏也（宮古市企画部復興推進課）

技術キーワード：中心市街地活性化、まち育て、連携、地域資源、社会的創発

▼研究の概要（背景・目標）

宮古市では、中心市街地拠点施設と市庁舎跡地の整備に際し、これまで2カ年実施した地域協働研究により、「中心市街地活性化」と「市民参画」をキーワードとして基本的議論や実践を試みるなかで、市民が当事者となりまちづくりに関わる＝「まちを育てる」という意識が芽生えてきた。

本研究では、さらに「行政主導から脱却し、市民主体の活動への移行、継続が必要」との仮説を立て、市民が将来に向けて関わり育てていく賑わいの場の創出を、実証活動を通して具体的に提案することを目指す。

▼研究の内容（方法・経過）

■市民ワークショップの実施（H29.6～H29.11）

計5回の市民ワークショップを実施。5つのプロジェクトに分かれて、まちなかでどんなことをしたいかアイデアを出し合うところからスタートした。第2回から第4回は、プロジェクトごとにアイデアの具体化へ向けての準備を行った。第5回は振り返りワークショップとし、成果や課題を共有した。



■「みやこ・わくわくストリート2017」開催（H29.10.15）

平成29年10月15日（日）10時より、中央通商店街から新川町、市役所分庁舎エリアに3ヶ所の会場を設け、これまでのワークショップで育んだアイデアを実践する場「みやこ・わくわくストリート2017」を開催した。当日はおだやかな好天に恵まれ、多くの市民の方々に参加していただくことができた。また、また、他団体とも連携し「シネマ・デ・アエル」のイベントも、同日開催された。中心市街地の駐車場や使われていなかった土蔵といった「空間」が、生き生きとした活動の「場所」に変わる様子を目の当たりにした1日となった。



みやこアクティブフェスティバル2017
分庁舎の駐車場が、子ども向けのニュースポーツ体験広場に変身！



みやっ子商店
商店街のガレージが駄菓子屋さんに。子どもだけでなく、家族みんなで楽しめる場所になりました。



ほりた・デ・アエル
土蔵を活用して、昭和の宮古のまち並みを描いたイラスト展「みやこの店こやさん」を開催。



まんなかマルシェ
ハンドメイド作品の展示・販売、市民作家の作品展示などを実施。音楽を楽しむ場も。

▼研究の成果（結論・考察）

1. 参加した市民メンバーには、自らが当事者となって関わる＝「まちを育てる」という意識が芽生え、一定の成果を実感することができた。
2. 宮古市内のまちなかに存在する伝統的な商家の土蔵などを地域資源として捉え、これらが賑わいの場の核となりうる可能性が示唆された。
3. 一方で、「イベントとしての活動だけではなく、自然に日常的に継続できるような活動も必要ではないか」という課題が認められた。

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 平成30年度は、中心市街地拠点施設の完成時期を迎え、市庁舎跡地整備の検討が本格化する。そこで、これまでに育まれた市民による活動の蓄積を生かしながら、その拡大と安定的な継続を目指し、「さらなる連携の拡大」と「エリア全体での地域資源の活用」を柱として活動することを目指す。
2. 「まちづくり市民会議season3」メンバーの皆様、および関係者の皆様に、感謝申し上げます。